



食壁彦夫代表より賞状を受け取る池田靖洋氏



受賞の喜びを語る池田靖洋氏

第11回村上記念「胃と腸」賞贈呈式 開催される

第11回 村上記念「胃と腸」賞は、次の論文に贈られた。

「内視鏡的乳頭括約筋切開術の長期成績一再発結石と胆嚢無石・有石例の検討を中心に」

池田靖洋*, 田中雅夫**, 松本伸二, 吉本英夫
(*福岡大学第1外科, **九州大学第1外科)

「胃と腸」第20巻第11号, 1169-1180頁, 1985年

贈呈式は、7月16日夜、早期胃癌研究会7月度例会（東京・エーザイ本社ホール）で行われた。例会幹事の西沢護氏（東京都がん検診センター）より、受賞論文の紹介があったあと、執筆者を代表して池田靖洋氏が登壇し、「胃と腸」編集委員会代表の白壁彦夫氏（順天堂大学・内科）より賞状、賞牌、賞金が贈呈された。続いて選考経過が、多賀須幸男氏（関東通信病院消化器内科）より述べられ、「この論文の価値は、411名の内視鏡的乳頭切開術を施行された全例の予後を追跡されていることです。1例残らず予後調査するのは大変なことで、その苦勞の一端が編集後記に書かれています。無症状例についてもERCを行っておられることも、オリジナリティの1つです。成績の解析は極めて手がたく進められており、論文は非常にわかりやすく書かれており、内視鏡的乳頭切開術の適応がよくわかり、臨床的に極めて役に立つ論文です」と祝辞を述べられた。

なお、村上記念「胃と腸」賞の“村上”は、早期胃癌研究会にその創設時から深くかわられ、また「胃と腸」編集委員会の代表として永年つとめられ、本誌の基礎を築かれた前東京医歯大教授・村上忠重氏の功績と貢献を永く記念するために第8回(1983年)より、名を冠することになったものである。



祝辞を述べる
多賀須幸男氏